

令和 5 年 4 月 12 日

『外国人労働者と支援システム 日本・韓国・台湾』の出版

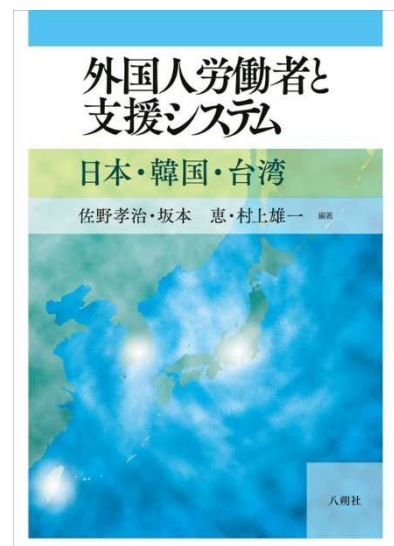
福島大学の佐野孝治教授、坂本恵教授、村上雄一教授が、これまでの国際比較研究の成果をまとめて、『外国人労働者と支援システム 日本・韓国・台湾』（八潮社）を刊行しました。本書は、欧米諸国に比べ、共通の社会経済システムと課題を持つ日本・韓国・台湾について、外国人労働者受入れの現状と課題を明らかにし、制度・政策・支援システムの比較を踏まえて、多文化共生を基本に置いた持続可能な外国人労働者受入れシステムについて論じています。多くの方々に手に取っていただけますと幸いです。

佐野、坂本、村上の 3 名が外国人労働者に関する研究を始めたのは、2007 年に福島県の縫製企業で、時給 300 円で働かされていたベトナム人研修・実習生を支援し始めたことが契機となっています。2011 年以降、ほぼ継続して、文部科学省の科学研究費に採択され、日本、韓国、台湾における外国人労働者の実態と外国人労働者政策に関する国際比較研究を進めてきました。本書は、この共同研究の近年の成果の一部です。

日本の外国人労働者数は、2012 年の 68 万人から 2021 年 10 月には 172.7 万人となり、10 年間で 2.5 倍に増加しています。韓国と台湾は増加率こそ日本に及びませんが、2021 年現在、それぞれ 86 万人、67 万人であり、就業人口に占める割合はそれぞれ 3.1%、5.9%と、日本の 2.6%を超えています。

現在、アジアでは経済成長と少子高齢化が進む中で、すでに「外国人労働者争奪戦時代」に突入しています。その中で、日本は、経済停滞や円安等で、「働く国としての魅力」を急激に低下させています。特に、人口減少が深刻で、外国人数が相対的に少ない地方における受入れシステムや支援体制の整備は非常に遅れています。

そのため、経済・社会発展と外国人労働者の人権を両立させていくための、持続可能な外国人労働者受入れシステムを構築していくことは緊急の課題だと思います。本書が、外国人労働者、移民、多文化共生に関心を持つ多くの読者の目に触れ、何らかのヒントになれば幸いです。



(お問い合わせ先)
理事・副学長、経済経営学類・教授 佐野孝治
メール : ksano@econ.fukushima-u.ac.jp

佐野孝治・坂本恵・村上雄一／著・編集

『外国人労働者と支援システム 日本・韓国・台湾』

(発行:八潮社、2023年3月25日出版、価格:2,600円+税)

【目次】

序文 (佐野孝治)

第1部 日本・韓国・台湾における外国人労働者受入れの現状・制度

第1章 日韓の外国人労働者受入れの現状と課題 (佐野孝治)

第2章 中規模受け入れ県から見る外国人労働者雇用の現状と課題
 —外国人労働者と創る地域社会の未来— (坂本恵)

第3章 台湾における移住労働者の受入れの現状と課題 (村上雄一)

第2部 外国人労働者への支援システム—多文化共生社会の実現に向けて—

第4章 日本政府の入管法改定, 外国人労働者受入れ緩和策と外国人労働者支援システムの現状 (坂本恵)

第5章 インターネットと移住女性と対抗的な公共圏—ベトナム人カトリック・コミュニティによる妊娠女性の支援を事例に—
 (巢内尚子)

第6章 韓国江原道における外国人労働者・住民の現況と支援システム
 (佐野孝治)

第7章 台湾における移住労働者の権利擁護と社会的包摂について
 (村上雄一)

おわりに (坂本恵)

